

## 井尻 B 遺跡第51次調査説明資料

### 井尻 B 遺跡とは

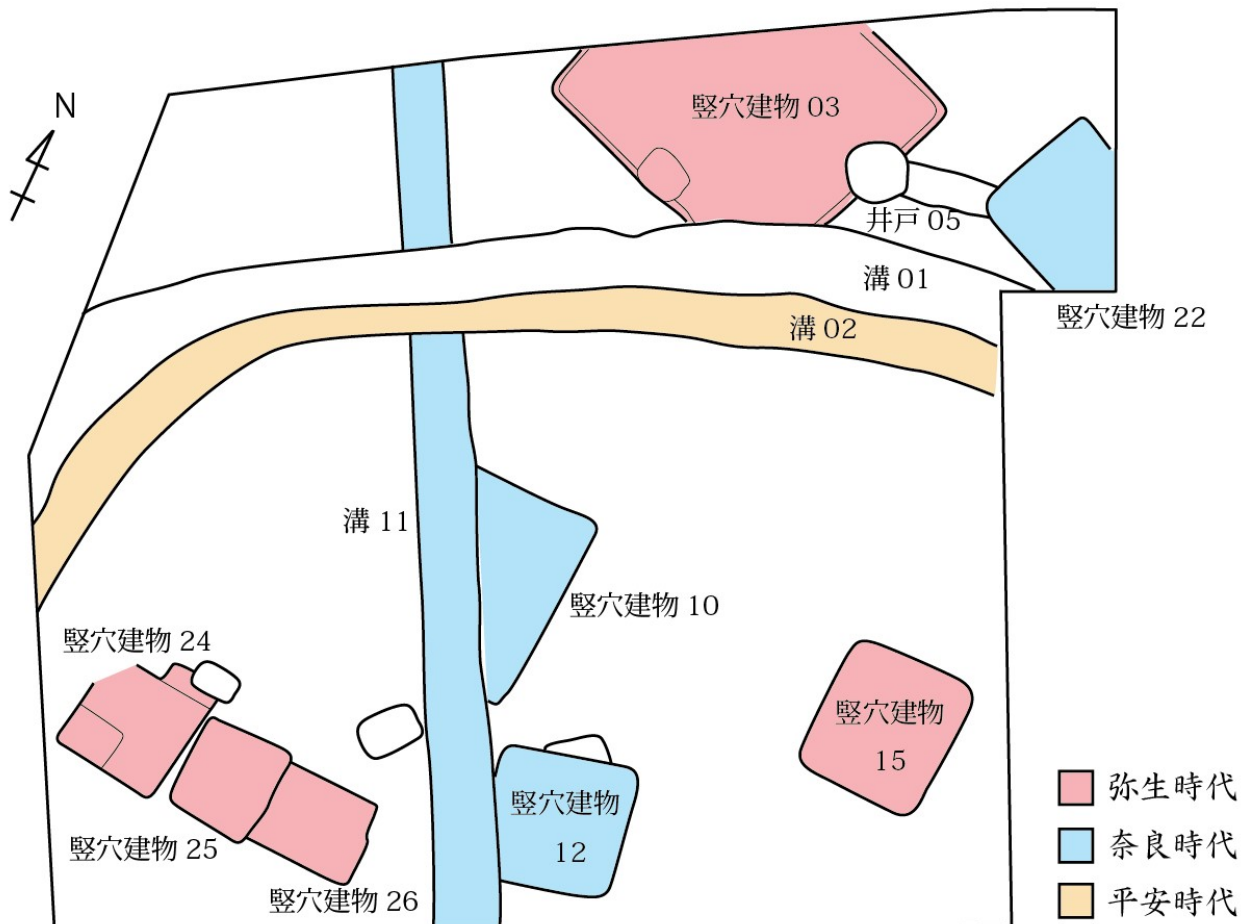
井尻 B 遺跡は旧石器時代から中世の遺跡で、集落跡や古墳などがみつかっています。弥生時代には人口が増えて数多くの建物が作られて、青銅器やガラスを作る工房も置かれました。飛鳥時代(7世紀)には調査地点の東側、遺跡の中心付近に寺院が建立されたとみられます。

### 今回の調査

今回の調査地点は遺跡の西端にあたります。主な遺構は弥生時代から奈良時代であり、遺跡の東側と同様です。

調査では、竪穴建物10棟、掘立柱建物2棟、溝6条のほか、井戸や土坑、柱穴などが見つかりました。このあたりが居住に適した場所だったことがうかがえます。奈良時代(8世紀)には、現在の道路とおなじ方向の溝が掘削されています。さらに平安時代(12世紀ごろ)には東西に大きな溝をめぐらしており、南側に屋敷などが存在した可能性があります。

今回の調査をとおして遺跡の西端付近まで弥生時代から人々が生活していたことが明らかになりました。今後は奈良時代や平安時代の溝の役割や東側の寺院との関係について、さらに調べていく必要があります。



## 見学会の見どころ

- ◎ 最大の見どころは弥生時代の竪穴建物 24。床面から大量の土器が折り重なるように見つかりました。炉跡やベッド状遺構など、建物のつくりも一目でわかる貴重な発見です。
- ◎ 奈良時代には竪穴建物が営まれた後に、南北方向のまっすぐな溝 11 を掘っています。土地の使い方が大きく変わったようにも思えますが、どのような意味があったのでしょうか。
- ◎ 今回の見学会では、実際の発掘作業を公開しています。ひと口に発掘と言っても、実に様々な作業があります。遺跡の姿を明らかにしていくプロセスもあわせてご覧ください。

## 竪穴建物の調査方法(一例です)



① 土の違いに気をつけて遺構を探します



② 建物の床面まで土を掘ります



③ 土の埋まり方を記録します



④ 床面の遺物は丁寧に確認します



⑤ 建物全体を掘り上げます



⑥ 床面の土(貼り床)を取り除きます